



直径1m超の硬い殻をもつアンモナイトを食べようと口を大きく開けて、アンモナイトの正面から近づいてくるモササウルスの一種プログナソドン。

◆知恵とパワーを備えたハンター

## 巧みなアンモナイト狩り

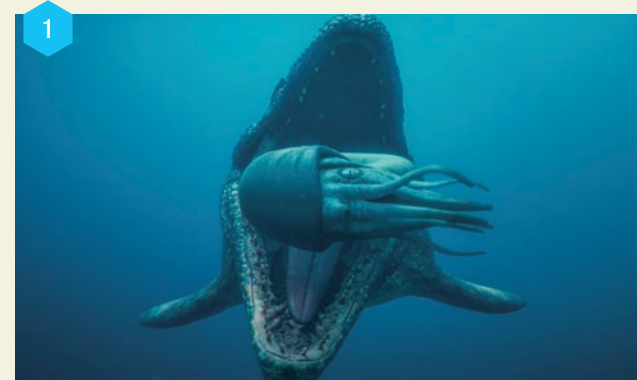
では、モササウルスはどのようにしてアンモナイトを捕食していたのか？ モササウルス研究者の小西氏が考えるモササウルスの「アンモナイト狩り」を再現してみよう。

アンモナイトは非常に大きな目をもっているため視力がよい。そこで死角である背後からゆっくりと近づく。アンモナイトに近づくと一気に加速し、アンモナイトの殻に噛みついて穴をあける。実は、アンモナイトの殻には気体が入っていて、アンモナイトはこの気体で浮力を調整している。そのため、モササウルスのあけた穴から気体も漏れ、アンモナ

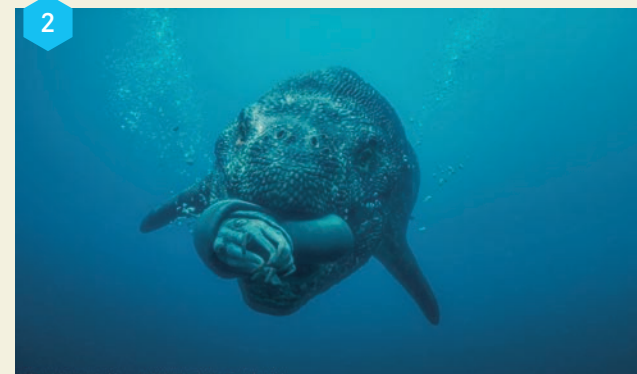
イトはうまく泳げなくなってしまう。

すばやく泳ぐことのできなくなったアンモナイトのやわらかい身の部分だけを、やすやすと食いちぎる。

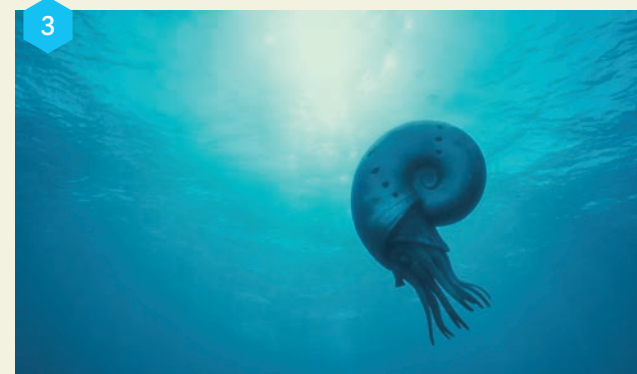
従来、爬虫類の一種であるモササウルスには高度な知能は備わっていなかったと考えられてきた。しかし、このアンモナイト狩りの方法からもわかるように、モササウルスは、こと狩りという側面においては、経験に基づく知能的な側面ももっていた。知恵とパワー、その両方を兼ね揃えていたからこそ、モササウルスは大繁栄を遂げることができたのだ。



1 アンモナイトの死角である背後から襲ってきたプログナソドン。



2 作戦成功、プログナソドンはアンモナイトを見事にゲット。



3 プログナソドンの攻撃で殻の中の気体が漏れてバランスを崩すアンモナイト。



4 動きが鈍くなったアンモナイトの軟体部分だけを食いちぎるプログナソドン。